

岩手大学

学校安全学シンポジウム2021

-安全に関する資質・能力の向上-

【プログラム】

13：00 開会行事・趣旨説明

13：15～14：30 シンポジストによる発表

1. 「大津波を生き抜いた子ども達からの伝承」

加藤 孔子（岩手大学教職大学院 特命教授）

2. 「なぜ児童生徒は教師に相談をしないのか

-援助要請行動の阻害要因について考える-

山本 奨（岩手大学教職大学院 教授）

3. 「学校安全推進体制の構築 ～S P S 認証に向けた取組について～」

三浦 勇佑（石巻市立河北中学校教諭・防災主任）

14：30～14：40 休憩

14：40～15：45 討論

15：45 閉会行事

主催：岩手大学教育学部附属教育実践・学校安全学研究開発センター

後援：日本安全教育学会

岩手県教育委員会

日本セーフティプロモーションスクール協議会

開会のご挨拶



本日はご多用中にもかかわらず、多数の皆様にご参加いただきましたことを深く感謝申し上げます。

本シンポジウムを主催します教育学部附属教育実践・学校安全学研究開発センターは、2020年4月の設置以降、東日本大震災の教訓を継承し学校安全の充実に資する教員の養成・研修に努めております。とりわけ「学校安全学と防災教育」という2単位分の科目を教育学部1年生の必修科目とし、教員になるにあたっての基盤的資質として学校安全に関する理解を位置付けています。また、本学における教員養成や、学校現場における学校安全に関する実践の理論的基盤としての「学校安全学」の構築を目指し、センターの構成員をはじめ、日々尽力している次第です。

さて、本日のシンポジウムのテーマである安全に関する資質・能力は、2017年3月24日に閣議決定された「第2次学校安全の推進に関する計画」において、全ての児童生徒が身に付けることが目指されているものです。本日は安全に関する資質・能力という観点から、東日本大震災津波において学校外にいながらも自らの命を守り抜く行動をとれた釜石小学校の経験に改めて学び直すとともに、自身の生命を大事にするうえで最も避けられるべき子どもの自殺（自死）対策として近年注目されている援助要請行動について、その阻害要因を含めて講話いたします。また、東北地方で唯一学校安全について組織的・体系的な取組を行う学校として、セーフティプロモーションスクールの認証を受けている石巻市における実践に学ぶことで、安全に関する資質・能力を高める教育実践や環境について広く討議がなされるものと伺っています。

最後になりますが、本学では「岩手大学ビジョン2030」を策定し、共考と協創を通じてよりよい未来の創造に貢献する「地域の知の府」「知識創造の場」を目指しております。本日は長時間にはなりますが、学校安全学シンポジウム2021が学校安全に関する理解をより一層深め、学校、家庭、地域それぞれの立場からできることについて、ご参加の皆様と共に考える機会となることを心よりお祈り申し上げ、開会のご挨拶に代えさせていただきます。

岩手大学長 小川 智

シンポジスト略歴紹介



岩手大学大学院教育学研究科
特命教授

加藤 孔子 (かとう こうこ)

岩手県出身。岩手大学教育学部卒業後、岩手県内で小学校教諭、指導主事、教頭、校長を歴任。定年退職後に岩手大学教育養成支援センター特命教授を経て現職。

内閣府「防災教育・周知啓発ワーキンググループ（防災教育チーム）委員（令和2年12月～令和3年6月）のほか、釜石市いのちをつなぐ未来館名誉館長、大震災かまいしの伝承者、北九州市防災・減災教育推進アドバイザーを務める。

岩手大学大学院教育学研究科 教授

山本 奨 (やまもと すすむ)



博士（心理学）、公認心理師、臨床心理士。専門は学校臨床心理学。不登校問題やいじめ問題などの学校不適応・学校ストレスを研究領域とする。

静岡県出身。埼玉県で高等学校教頭、指導主事を経験の後、平成21年4月より岩手大学教育学部准教授。その後、学部教授を経て、平成28年4月より現職。震災対応のため岩手県教育委員会が組織する「いわてこどものこころのサポートチーム」代表、同事務局学校教育室付のスクールカウンセラーなどを務める。

著書に「いじめ問題解決ハンドブック：教師とカウンセラーの実践を支える学校臨床心理学の発想」（金子書房（2018）,共著）など。



石巻市立河北中学校教諭・防災主任

三浦 勇佑 (みうら ゆうすけ)

宮城県出身。盛岡大学文学部日本文学科卒業。
2012年より宮城県の中学校教諭（国語）として県内の中学校に勤務。石巻地区の中学校（門脇中学校，女川中学校，万石浦中学校）を経て現職。

昨年度は防災副主任を担当し、今年度より防災主任として学校防災の推進やセーフティプロモーションスクール認証に向けてコーディネーターを務めた。

【総合司会】

・上濱 龍也

（岩手大学教育学部 教授、教育学部附属特別支援学校長）

【コーディネーター】

・庄子 元

（岩手大学教育学部 准教授）

専門は人文地理学。平成29年度防災士養成講座にて講師を担当。

・本山 敬祐

（岩手大学教育学部附属教育実践・学校安全学研究開発センター 准教授）

SPS推進員、独立行政法人教職員支援機構「令和3年度 学校安全指導者養成研修」修了。

【閉会行事】

・宇佐美 公生

（岩手大学教育学部長、附属教育実践・学校安全学研究開発センター長）

岩手大学 学校安全学シンポジウム 2021

「大津波を生き抜いた子ども達からの伝承」

1 大津波を生き抜いた子ども達

2 災害安全 身につけさせたい資質・能力

3 災害安全
教職員として身につけたい資質・能力

4 防災教育新時代へ

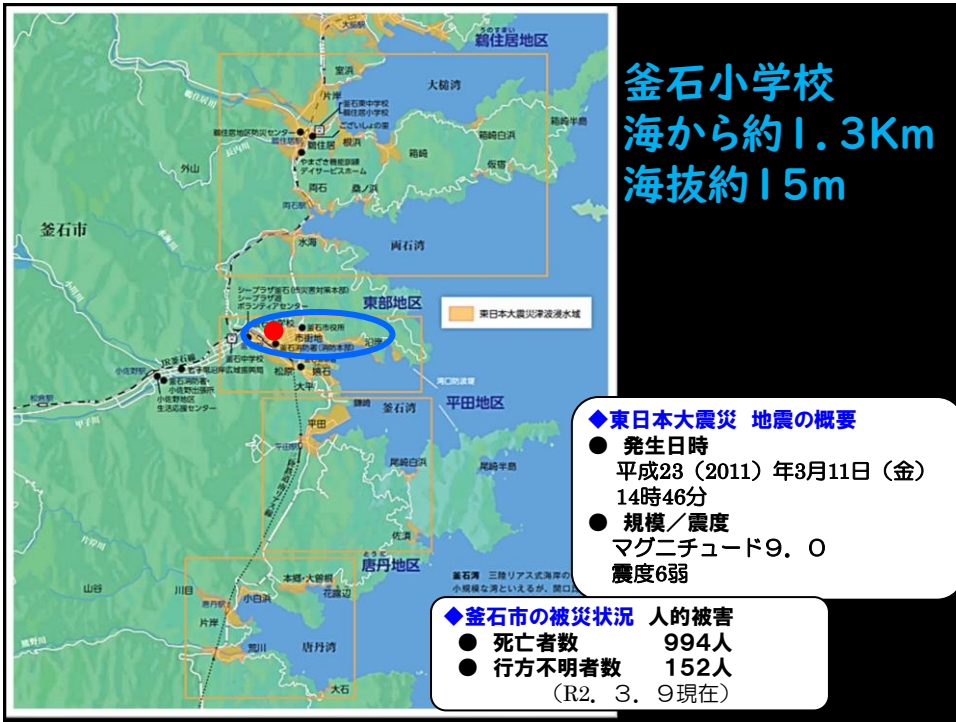
岩手大学教職大学院 特命教授 加藤 孔子
(元釜石小学校長／釜石市いのちをつなぐ未来館名誉館長
／大震災かまいしの伝承者)

令和3年11月27日(土)



1 大津波を生き抜いた子ども達





2011 (平成23) 年3月11日 (金)

3月11日 (金) 給食 帰りの会
3月9日 (水) の会 :00 児童完全下校予定

**午後2時46分
巨大地震
大きな揺れ
長い間**

釜石小学校
海から約1.3Km
海拔約15m

地震発生
津波観測
意報解除







奇跡ではないよ。ぼくたちは学校で学んだことを思い出して行動しただけ。実績です。

釜石小学校の防災教育

奇跡ではない釜石小の軌跡

釜石小学校の防災教育 奇跡ではない釜石小の軌跡

ぼく・わたしの津波防災安全マップ作り



下校時津波避難訓練



防災授業



釜石小学校の防災教育 奇跡ではない釜石小の軌跡

釜石市津波防災教育のための手引き

釜石市 教育委員会
釜石市 市民生活部 防災課
群馬大学災害社会学研究室

3 2 小学校3-4年生 (1) 指導の注意点

1 導入

- ①津波が襲来して、海沿い沿いの人が逃げ遅れ、被害を受けた。
- 津波が襲来したら、「津波が来るぞ」という知らせが聞こえるよと知らせする。
- 津波が襲来したら、すぐに避難するための避難場所が避難場所になるよと知らせする。
- 津波が襲来したら、逃げ遅れた人がいるよと知らせする。
- 津波が襲来したら、逃げ遅れた人がいるよと知らせする。



2 展開

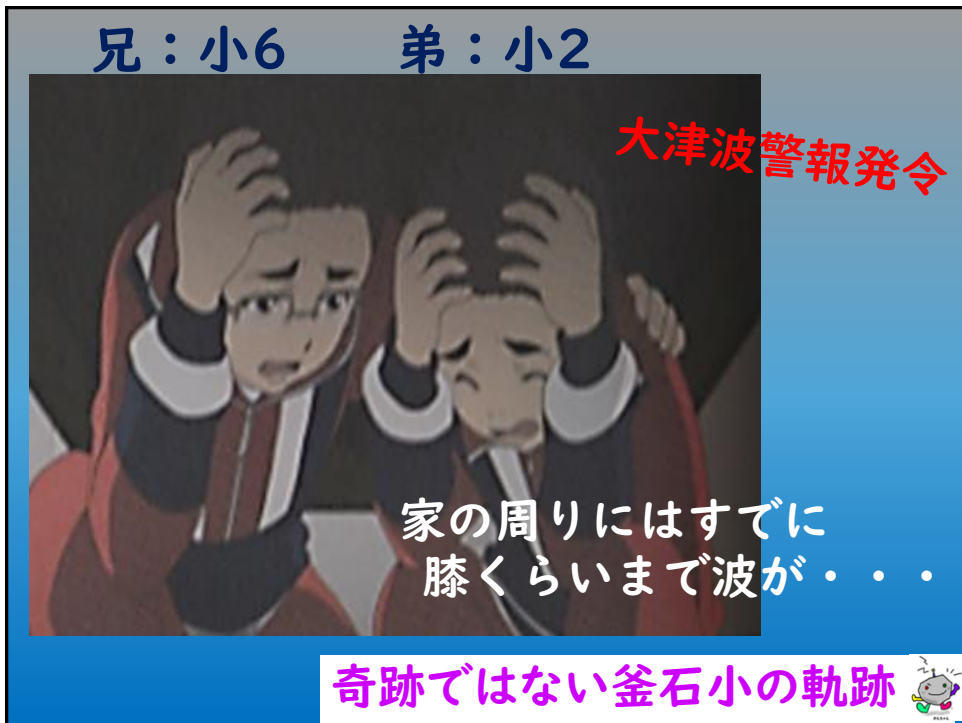
- ①津波が襲来したら、逃げ遅れた人がいるよと知らせする。
- 津波が襲来したら、逃げ遅れた人がいるよと知らせする。
- 津波が襲来したら、逃げ遅れた人がいるよと知らせする。
- 津波が襲来したら、逃げ遅れた人がいるよと知らせする。
- 津波が襲来したら、逃げ遅れた人がいるよと知らせする。



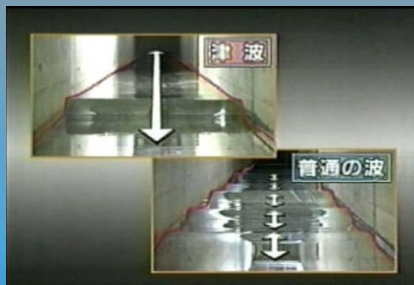
3 まとめ

- ①津波が襲来したら、逃げ遅れた人がいるよと知らせする。
- 津波が襲来したら、逃げ遅れた人がいるよと知らせする。
- 津波が襲来したら、逃げ遅れた人がいるよと知らせする。
- 津波が襲来したら、逃げ遅れた人がいるよと知らせする。
- 津波が襲来したら、逃げ遅れた人がいるよと知らせする。





「兄ちゃん、早く行こう。」



50CMの波でも
人は流される！

奇跡ではない釜石小の軌跡



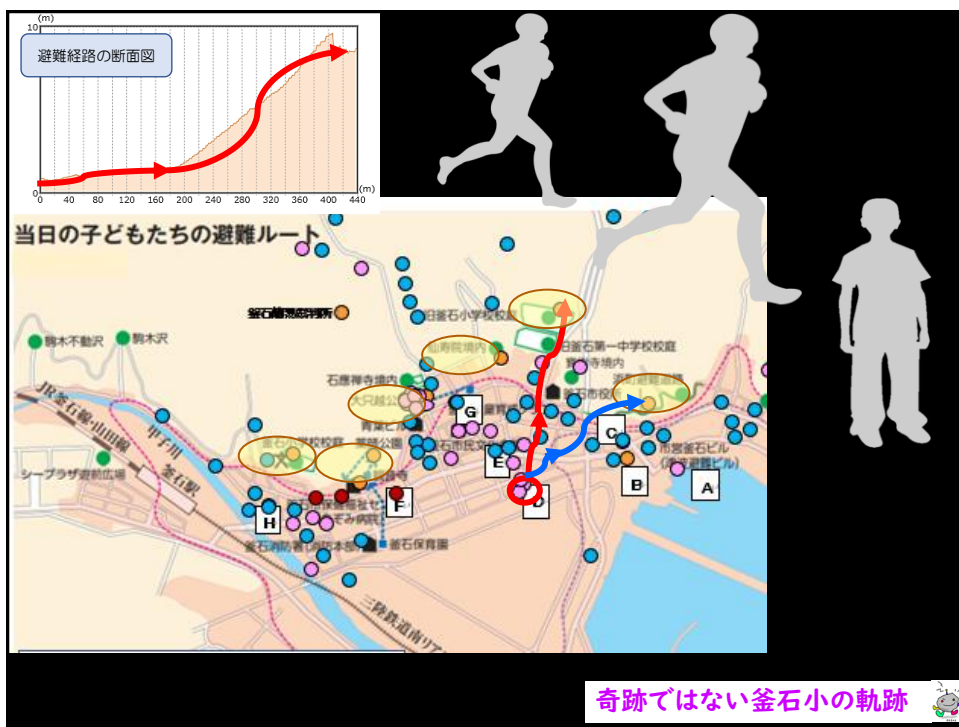
50cmの波でも人は流されるという実験映像





「学校の防災教育のおかげです。」

奇跡ではない釜石小の軌跡 



奇跡ではない釜石小の軌跡 

2 災害安全

身につけさせたい資質・能力



防災を含む安全に関する教育（小学校学習指導要領）

総則	<p>第2の2 (2) 各学校においては、児童や学校、地域の実態及び児童の発達段階を考慮し、豊かな人生の実現や災害等を乗り越えて時代の社会を形成することに向けた諸課題に対応して求められる資質・能力を、教科横断的な視点で育成していくことができるよう、各学校の特色を生かした教育課程の編成を図るものとする。</p>			
総則	体育科 ●場や用具の安全 ●安全確保につながる運動 ●けがの防止 ●危険の予測や回避	特別の教科 道徳 ●節度節制（健康安全） ●生命の尊さ（声明を大切にすること）	理科 ●雨水の行方と地面の様子 ●流れる水の働きと土地の変化 ●天気の変化 ●土地のつくりと変化 ●災害に関する基礎的な理解	社会科 ●地域の安全を守る働き（知識技能、思考力、判断力、表現力） ●自然災害から人々を守る活動（災害からの備え、守る活動） ●自然災害からの復旧復興
特別活動	家庭科 ●健康・快適・安全で豊かな生活	総合的な学習の時間 ●現代的な諸課題に対応	生活科 ●安全な登下校	図画工作科 ●材料や用具の安全な扱い



2 災害安全 身につけさせたい資質・能力 釜石小学校防災教育

何ができるようになるか

災害（津波）から命を守ること

社会に開かれた教育課程



何を学ぶか

どのように学ぶか

- 安全マップづくり
 - ・地域を知る（人・もの・こと）・地形理解
 - ・通学路の危険を知る
 - ・避難場所を知る
- 下校時津波避難訓練
 - ・大人がいないときの地震の対処法を知る
 - ・地震後の行動を知る
 - ・様々な場所からの避難場所を考える
- 防災授業
 - ・浸水区域を知る
 - ・過去の地震津波を知る
 - ・地震津波のメカニズムを知る
- 道徳 ●体育 ●理科 ●社会 ●特別活動
- 家庭科 ●生活科 ●図画工作

- 安全マップづくり
 - ・地域を歩く（人・もの・こと）
 - ・親子で歩く
 - ・友達と歩く ・友達と大きな地図をつくる
- 下校時津波避難訓練
 - ・地区ごとの異年齢集団で下校
 - ・6年生のリーダーの指示
- 防災授業
 - ・工夫された教材
 - ・地図を作ったり、実験したりする
 - ・自分事としてとらえる
- 道徳 ●体育 ●理科 ●社会 ●特別活動
- 生活科 ●図画工作

主体的な学び
対話的な学び
深い学び

カリキュラムマネジメント

2 災害安全 身につけさせたい資質・能力 釜石小学校防災教育

何ができるようになったか

災害（津波）から命を守ること

東日本大震災釜石小学校記録集

「いきいき生きる」2012年2月発行
児童作文より 63名

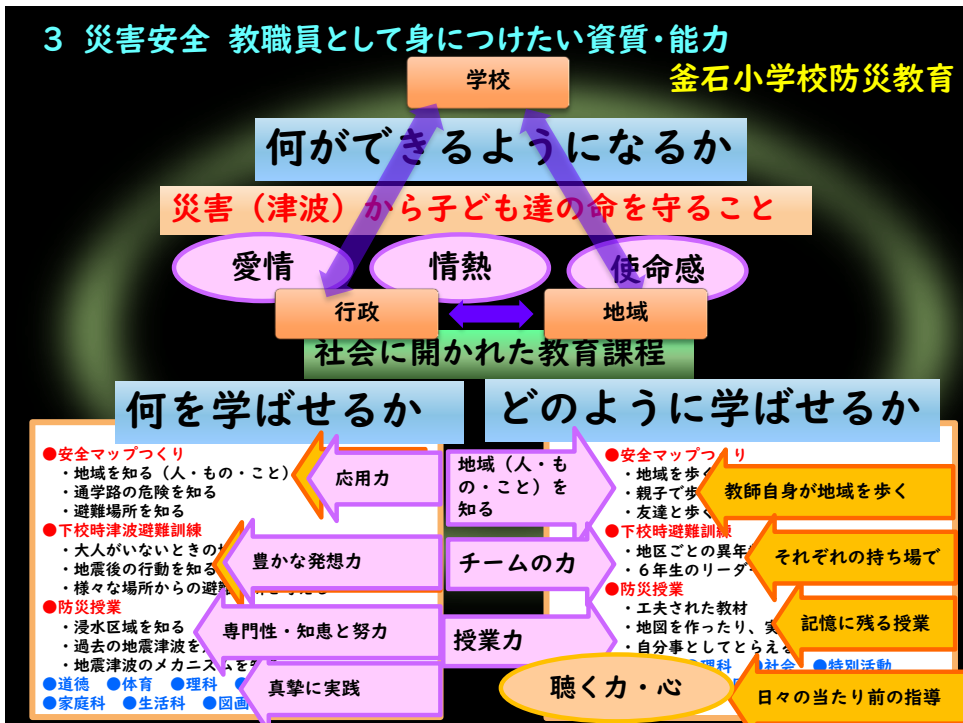


避難行動の分析

- 自己判断で避難場所に到着した児童 35名
- 周囲の判断を聞いて避難場所に到着した児童 28名
- 他者に声をかけて避難させた児童 6名
 - ・避難しようとしないうちを説得
 - ・避難場所（公園）で安全な場所に集まるよう指示
 - ・幼稚園の弟に声をかけて即避難
 - ・家に戻ろうとした友達を引き止めた
- 学校の防災学習や先生の話思い出して避難した児童 4名

3 災害安全

教職員として身につけたい資質・能力



釜石小学校の防災教育のねらい
 ☆ 津波や津波から身を守る仕組みについてよくわかり、命を守ることできる子に。
 ☆ いざというときに、臨機に立ち向かうことができる子に。

津波防災教育の全体計画の策定
 ☆ 命を守る学習を教育計画に位置付ける。
 ・学級活動の時間を中心に
 ・各教科や道徳、総合的な学習などとの関連。

地域防災に対するねらい
 ☆ 子どもたちの津波防災への意識・判断力・行動力を育てるとともに、大人である保護者・地域の方々の防災への意識・行動力等も高めていきたい。

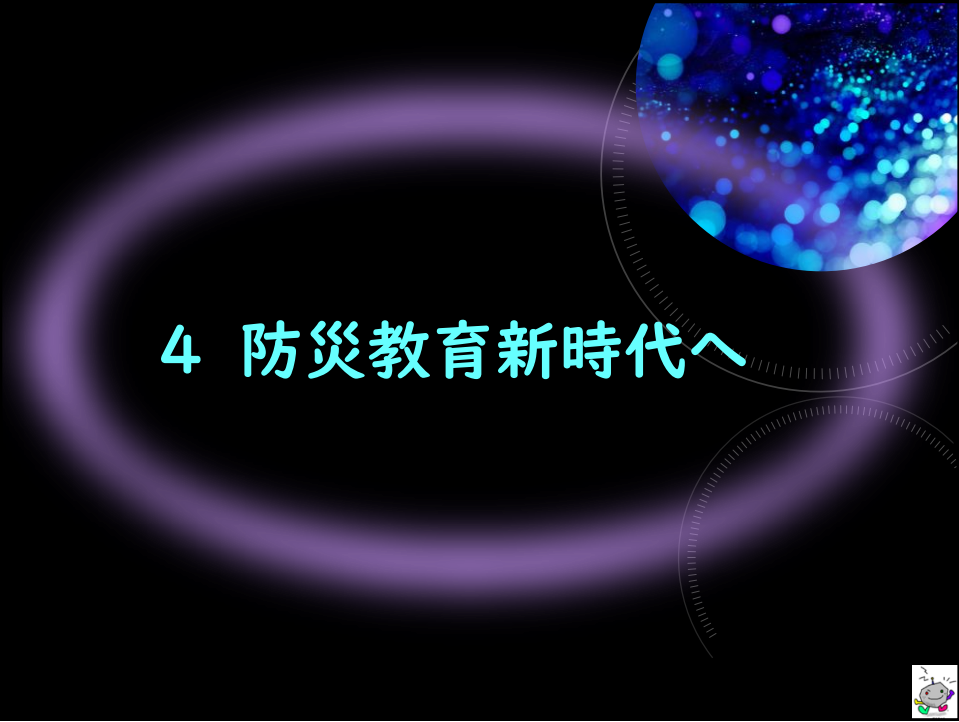
津波から命を守る学習 子どもたちに
 全学年・全校での授業実践 (2, 3学期)
 こんなに津波がすごいとおもいませんか。ばくは50cmの津波でも息をつけないし、津波が来たらずに避難をする準備をします。(児童の感想より)
 津波が来たらすぐ近くの避難場所に行った方がいいと思いました。津波はいつ来るかわからないので、家でも準備した方がいいです。(児童の感想より)

防災教育講演会 (H20. 11. 8) 保護者に
 群馬大学大学院教授 片岡敏孝先生に「津波から身を守る知恵を持った子育てる」と題して、ご講演をいただきました。学習参観日に実施したのですが110名以上の保護者が参加し、大変有意義な機会となりました。
 防災意識の地味を再認識されました。日頃から、家裏でいるな場所での避難の仕方等、シミュレーションしておこうと思いました。津波警報が出たら避難する、津波が来なかったら「良かったね」と言い合える地域の連携も必要だと思いました。(保護者の感想より)

下校時避難訓練 (H20. 11. 8)
 釜石小児童保護者ら訓練
 下校時に津波警報
 釜石市立釜石小学校の二箇力(たけがき)やどき、地区ごとに集団下校を行う、その途中で「緊急地震速報一発地震発生」という放送で停まりました。地域の方も参加して下さり、防災にみて家庭・地域ぐるみで臨む貴重な訓練となりました。

安全マップをつくろう (6月下旬) 親子で
 製作にあたっては、親子で歩き、話し合い、一人一人に合った地図を作成しました。安野町は、さらに津波被害に重点をあてて、よりねらいの明確なマップにしていきたいと考えています。

津波について、学習発表会で熱演 (H20. 10. 25) 子どもからの発信
 この劇では、命の大切さや電線の大げんきなどいろんなことを伝えることができると思っているので、みんなに伝えられるようにがんばりたいです。(児童の感想より)
 目指している(考えたくない)題材を探して良かったと思います。勉強する家もおいて命の大切さがわかっていました。最後の「まっすぐ命を守る」ということばが、とてもいいと思いました。(保護者の感想より)



●釜石市の過去の地震・津波による被害

釜石市津波防災教育のための
手引きより引用

発生年月日	名称	地震の規模(M)	被害等
1896年 6月15日	明治三陸地震	8.2	津波の高さ：小白浜15.1m、 両石14m 釜石市の死者：約6,700人
1933年 3月3日	昭和三陸地震	8.3	津波の高さ：小白浜6.0m、 両石9.5m 釜石市の死者・行方不明者：約400人
1952年 3月4日	十勝沖地震	8.2	2.5mの津波襲来 釜石魚市場倒壊
1960年 5月24日	チリ地震津波	8.5	南米チリで起こった地震により約23 時間後に津波襲来。津波の高さ：小白 浜4.0m、釜石3.5m
2011年 3月11日	東北地方太平洋 沖地震（東日本 大震災）	9.0	津波の高さ：両石32.8m 釜石市の死者行方不明者：約1,200人



●先人が私たちに遺してくれていたもの

● 津波てんでんこ

● 海の底が見えたら津波が来る

● 碑



昭和8年

明治29年



災害伝承



過去

●先人たちからの伝承

●悲劇が繰り返されるのはなぜか？

●震災前の釜石市の課題

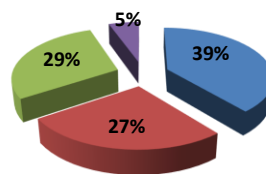
…大人が避難しようとしにくいこと

正常性バイアス

●子ども達を育てる…**防災教育**

参加しなかったわけ

■家が高いところ ■家の人が参加しなくていい ■寝ていた ■その他



災害伝承 大津波を生き抜いた子ども達

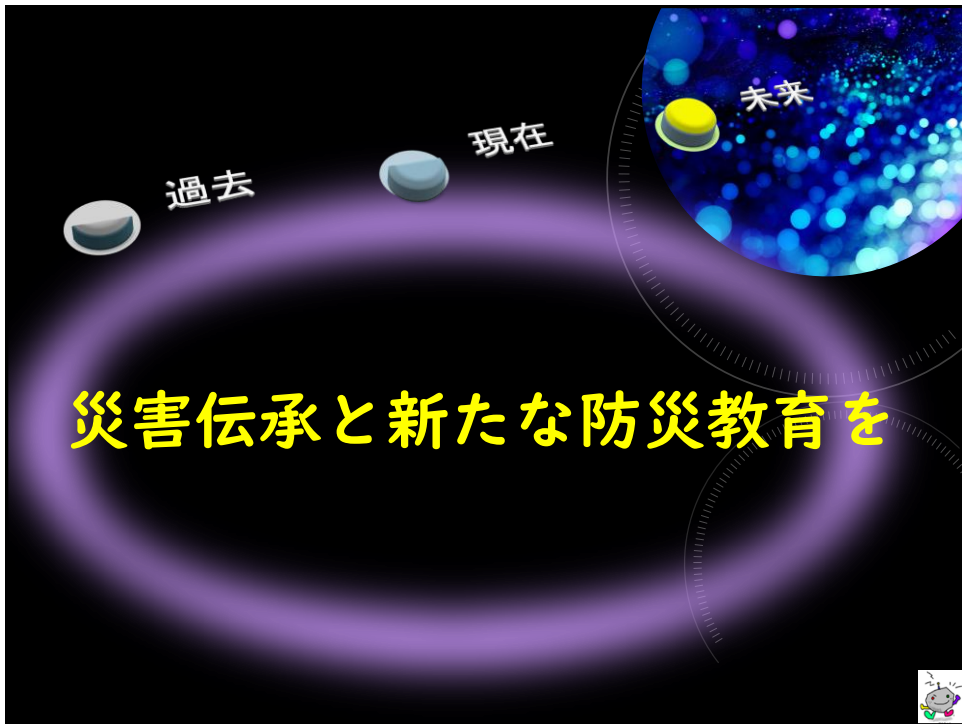
未来

いきる

かかわる

そなえる

防災教育は、10年後に地域を支える大人をつくり、20年後には地域の防災文化をつくる礎である。（内閣府防災教育新時代提言）



過去 現在 未来

防災教育新時代を担う皆さんへ

教え その1

自分の命は自分で守る

教え その2

Only oneの防災教育を

教え その3

One teamを創る

(子ども、保護者、先生、地域、行政)



学校安全学シンポジウム

なぜ児童生徒は教師に相談をしないのか
— 援助要請行動の阻害要因について考える —

令和3年11月27日(土)

岩手大学 山本 奨

自殺対策

児童生徒の自殺予防に係る取組について

(通知)3初児生第14号令和3年6月23日

- これまでも自殺対策基本法(平成18年法律第85号)等に基づき、学校において、児童生徒の自殺予防の取組の充実に積極的に取り組んでいただいているところです。
- 直近の令和2年においては、警察庁・厚生労働省の自殺統計によると、自殺者全体の総数は前年から912人増加して21,081人となるとともに、**児童生徒の自殺者数は499人で、前年(399人)と比較して大きく増加**、そのうち、女子中高生の自殺者数は209人で、前年(127人)と比較して約1.7倍となっています。
- 18歳以下の自殺は、学校の長期休業明けにかけて増加する傾向があります。そのため、これらの時期にかけて、学校として、児童生徒の自殺予防について組織体制を整え、取組を強化することは、児童生徒の尊い命を救うことにつながります。

- 自殺対策基本法第17条に定める「心の健康の保持に係る教育及び啓発」を推進するため、
- 「各人がかけがえのない個人として共に尊重し合いながら生きていくことについての**意識の涵養**等に資する教育」、
- 「困難な事態、強い心理的負担を受けた場合等における対処の仕方を身に付ける等のための教育」(「**SOSの出し方に関する教育**」)を含めた自殺予防教育、
- 「**心の健康の保持に係る教育**」を実施するなどにより、児童生徒自身が心の危機に気づき、身近な信頼できる大人に相談できる力を培うとともに、
- 児童生徒が安心してSOSを出すことのできる**環境の整備**に努めること。

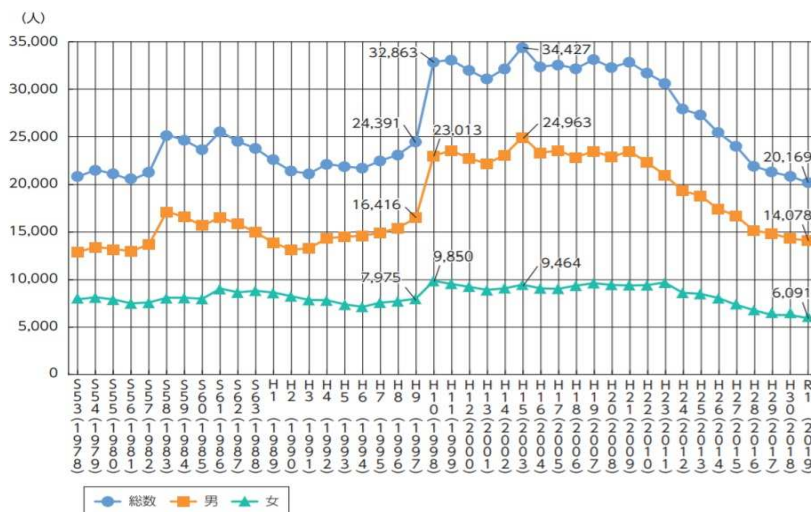
児童生徒の自殺予防に向けた困難な事態、強い心理的負担を受けた場合などにおける対処の仕方を身につける等のための教育の推進について

(通知)29初児生第38号社援総発0123第1号平成30年1月23日

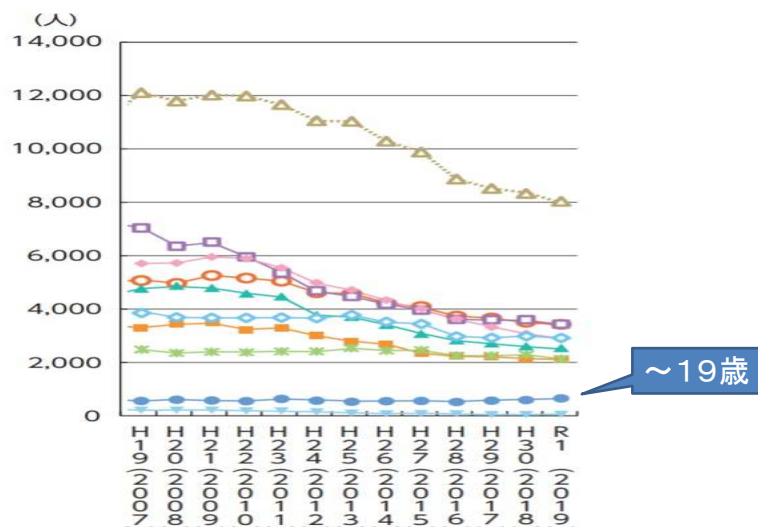
文部科学省初等中等教育局児童生徒課長
厚生労働省大臣官房参事官（自殺対策担当）

- SOSの出し方に関する教育は、命や暮らしの危機に直面したとき、誰にどうやって助けを求めればよいか具体的かつ実践的な方法を学ぶ教育である。
- 児童生徒の自殺を予防するためには、心の危機に陥った友人への関わり方を学ぶことが重要である。
- このため、SOSの出し方に関する教育を実施する場合は、SOSの出し方のみならず、**心の危機に陥った友人の感情を受け止めて、考えや行動を理解しようとする姿勢などの傾聴の仕方(SOSの受け止め方)**についても児童生徒に対し教えることが望ましいこと。

自殺者数の推移



年齢階級別自殺者数の推移



自殺対策基本法(平成18年(改正:平成28年))

第十七条 3

- 学校は、(略)当該学校に在籍する児童、生徒等に対し、(略)
- 困難な事態、強い心理的負担を受けた場合等における対処の仕方を身に付ける等のための教育又は啓発
- その他当該学校に在籍する児童、生徒等の心の健康の保持に係る教育又は啓発を行うよう努めるものとする。

「抵抗」による理解

悩みを語らない子供たち

(0) スキル不足：

「気持ちを上手く表現できないから」

「気持ちの整理がついていないから」

「援助の求め方が分からないから」

抵抗

- 悩み事を解決したいはずの子どもが対話に協力してくれないという事態は、カウンセリングにおける「抵抗」に似ている。
- 抵抗は本来、精神分析において無意識への到達を妨げる抑圧抵抗や転移抵抗などを指すものだが、
- 今日では広く相談者の非協力的な言動の全てを含むことが多い。

1 課題対処への戸惑い

- (1) 自立すべき：
「自力で解決すべきだ（解決したい）と思う」
「援助を求めること自体が悪いことだと思う」
- (2) 鈍磨：
「相談すべきことか分からない」
「悩んでいること自体に気付けない」
- (3) 内容への抵抗：
「話題にすること自体が辛い」
「問題を見つめることが怖い」
- (4) 解決が望めない：
「助けを求めてもどうにもならない」
「話してもどうせ変わらない」
- (5) 解決を望まない：
「解決しなくていい」
「解決したいと思わない」

2 対人関係への戸惑い①

(1) 陽性転移：

「支援者に嫌われたくない」

「軽蔑されそう」

(2) 遠慮：

「人に迷惑をかけたくない」

「自分に時間を使わせては申し訳ない」

(3) 支援者による攻撃：

「言わなかったことを責められそう」

「このようなことになったことを叱られそう」

(4) 陰性転移：

「信じられない」

「裏切られるかもしれない」

2 対人関係への戸惑い②

『意見の押しつけ』

「正論やきれい事など聞きたくない」

「支援者の持論など聞きたくない」

『無駄な励まし』

「よく頑張っているよなどと言われたくない」

『干渉』

「追求されることが面倒」

「知られなくてよいことまで詮索してくる」

(5) こき下ろし：

「緊張したり遠慮したりするのが面倒」

「相談する時間がもったいない」

(6) 求めている援助ではない：

「欲しいものが得られない」

「役立つ返事がもらえない」

3 変化への戸惑い

(1) 関係の変質：

- 「支援者の態度が急に変化する」
- 「急に優しくなられるのが煩わしい」
- 「親しいからこそ相談できない」

(2) 噂の拡大：

- 「相談したことが話されてしまう」
- 「親に知られるのが面倒」

(3) 事態の悪化：

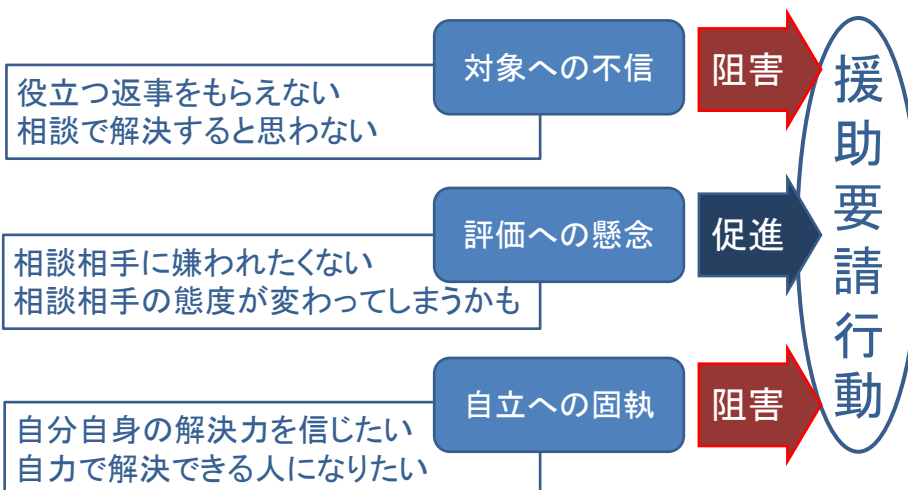
- 「相談した後どうなるか分からない」
- 「騒ぎが大きくなりそう」
- 「余計にこじれそう」

(4) 脅かされる自尊心：

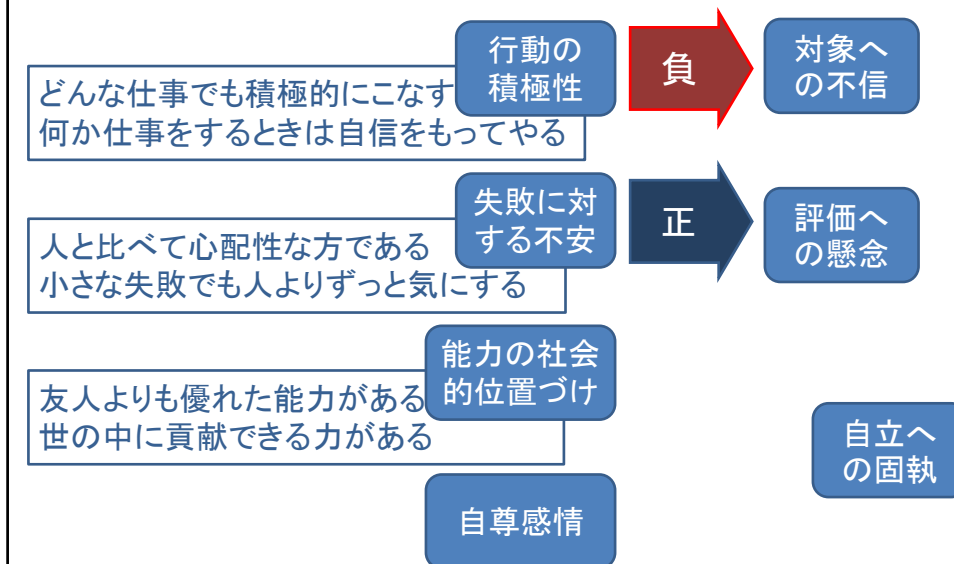
- 「相談したら弱い人間だと思われそう」
- 「悩んでいる人間だと思われたくない」
- 「相談するような人間だと認めたくない」

実証

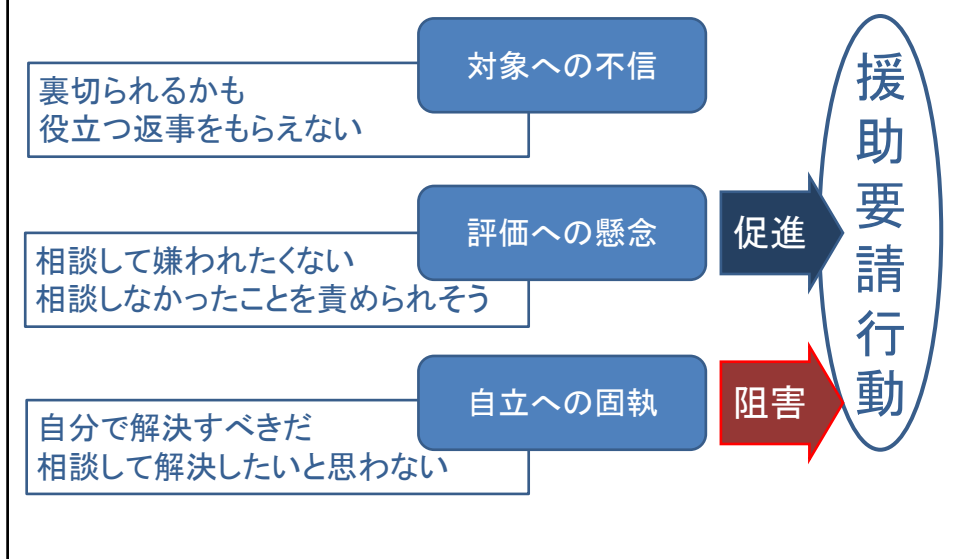
援助要請行動の阻害(促進)要因 (大学生:「進路のことで悩んだとき」)



援助要請行動の阻害(促進)要因の
要因(自己効力感と自尊感情)



援助要請行動の阻害(促進)要因
(子供)



選択肢

自殺予防教育とSOSの出し方に関する教育の整理表(文部科学省, 2018)

	自殺予防教育	SOSの出し方に関する教育		
		東京都足立区モデル (1回完結式外部講師活用型)	東京都モデル (1回完結式チーム・ティーチング DVD活用型)	北海道教育大学モデル (1回完結式教師主導絵本活用型)
目的	① 早期の問題認識(心の健康) ② 援助希求的態度の育成 ※「よい聴き手となるポイント」の学びを含む。	・児童生徒が自己肯定感を高め、将来起きるかもしれない危機的状況に備えて、SOSが出せるよう支援する (「自分を大切にしよう」、「信頼できる大人に相談しよう」という簡潔なメッセージを児童生徒に伝える)。	① ストレスへの対処方法等について理解できること、危機的な状況に対応するために適切な援助希求行動(信頼できる大人にSOSを出すこと)ができるようにする。 ② 周囲に心の危機に陥っている友人等がいた場合の対応(SOSの受け止め方)を学ぶ。	① 困ったときや苦しいときに信頼できる人にSOSを発信する方法を知る。 ② 自尊感情は、家族や友だち、周りの人たちとの共有体験によって培われることを知る。 ※「共有体験」とは、他人と経験や感情を共有すること。

「阻害要因」に焦点を当てた教育 (菊地ら, 2021)

因子	授業のねらい	授業のポイント
対象への不信 心理授業①	様々な不安や悩みの対処方法として、自分の状況にあった相談相手の条件を考え、相談しようという考えをもつことができる。	・自分にとって「これさえ守ってくれたら相談できるという条件」を考え、その条件に合った自分が信じられると思う相手を見つける。
自立への固執 心理授業②	様々な不安や悩みの対処方法として、自分で解決することと周りの人に相談することを自分なりに判断し、必要に応じて相談しようという考えをもつことができる。	・「登校班の班長」という場面を設定し、次々と降りかかる問題に対し、自分ななどのタイミングで相談するかを考え、人によって相談するタイミングが違うことに気付かせる。
評価への懸念 心理授業③	様々な不安や悩みへの対処方法として、相談することで相手からどう思われるかを心配することなく、相談しようという考えをもつことができる。	・実際に相談をする体験を行い、相談を受ける側の思いに着目させることで、相談相手は力になりたいと思ってくれていることに気付かせる。

「本当のこと」を聴き取る

- 子どもの心の動きを巧みにかわし、心の中に手を伸ばし、策を仕掛けて巧妙に相談事を奪い取るように聞き出そうとする努力→不信を買うのみ
- 大人が聞きたい相談事を話させる前に、
- まずどのような思いで話しをしないのかを聴く。
- 「相談したくない」は子どもの一番目の本心。
- 何も話してくれないと思っていた子どもたちは、「本当のこと」を既に話している。
- それに気づき聴き取ることができた大人には、二番目の「本当のこと」=相談事を話してくれる。

文献

山本奨(2019) 本当のことを言えない子どもたち, 児童心理, 金子書房

文部科学省(2018) 自殺予防教育とSOSの出し方に関する教育の整理表, 児童生徒の自殺予防に関する調査研究協力者会議(平成30年度)(第3回) 配付資料

菊地亜矢子・山本奨(2021) 小学生の援助要請行動を阻害する要因の探索とその測定尺度作成の試み, 日本教育心理学会第63回総会発表論文集

学校安全推進体制の構築 ～ S P S 認証に向けた取組について～



石巻市立河北中学校



防災主任 三浦 勇佑

- 1 学区の概要
- 2 本校の防災教育のねらい
- 3 S P S の認証に向けた取組
(安全教育・安全管理)
- 4 成果と課題



1 学区の概要

河北中学校の学区



全校生徒は137名
 生徒は、二俣・大谷地・大川
 地区から登校している
 自転車通学がほとんどで、大
 川地区生徒はスクールバス

2 河北中学校の防災教育のねらい

河北中学校の防災教育

東日本大震災の厳しい教訓

地域の災害特性

地域の一員として貢献

自助 共助 公助

本校の防災教育の目標

防災の基礎的・基本的な知識や技能を身に付ける
 防災、減災のために、自ら判断し行動する力を伸ばす
 自他の生命を尊重するとともに、社会の一員として主体的に行動し、
 協力しようとする態度を養う

- ・ 社会
- ・ 理科
- ・ 保健体育 等

教科

- ・ 思いやり
- ・ 生命の尊重
- ・ 協力 等

道徳

- ・ 学級活動
- ・ 校外学習
- ・ 地区生徒会等

特別活動

- ・ 学年毎のカリ
キュラム設定
- ・ 避難訓練 等

総合的な学
習の時間

家庭・地域との連携，職員研修により防災教育の充実を図る

令和2年度 石巻市立河北中学校の安全教育の推進について

学校教育目標 自主性に富み、心身と共に健康で、礼儀正しく情操豊かな生徒の育成
 河北地区小・中学校で学校安全において育てたい生徒像 自らの命を守るための知識や態度を身に付け、地域に貢献する児童・生徒

学校教育目標具現化のために「**キャリアプロモーションスクール(SPS)**」**認証に向けた取組を通して**

重点努力事項 「健康とたくましさ」育みプロジェクト、「安全・安心な学校」確立プロジェクト

SPSの主な中期目標：あらゆる危険からの回避能力の育成、けがの防止、地域の一員として社会貢献する態度の育成、地域と連携した安全確保体制整備、保護者と連携した交通安全

安全教育

SPSの主な中期計画：
 ・けが100件以内
 ・災害共済給付5件以内
 ・防災の授業、体験実施

発達段階を踏まえた系統的な防災教育の実施 防災教育副読本(県・市)等を活用
 各教科・領域を横断的に捉えた安全教育のカリキュラムマネジメント実施
 * 「防災安全マップ作りによる災害特性の理解と地域貢献できる人材育成」 **総合防災訓練や小中交流活動時での共有**
 2年生の社会等と総合的な学習の時間を中心とした**防災マップの作成と地域への安全提言**
 * 「地域貢献活動を通じた防災意識・態度の向上」 **総合防災訓練等での各地区での貢献活動**
 防災合い言葉を生かした防災啓発ティッシュの制作し**住民へ配布**、**防災マニュアルを作成し地域配布**により防災啓発
 保健の授業を中心とした交通事故防止等の危険回避能力の育成 **ヒヤリハット事例を取り入れた授業等**
 学級活動等をはじめとした不審者対応に係る指導 **不審者対応訓練、心肺蘇生(AED)訓練の実施等**
 保健・安全委員会を中心としたけが・事故減少に向けた**生徒による分析と働きかけ**等

安全管理

SPSの主な中期計画：
 ・定期点検と環境改善
 ・地域巡回危険箇所把握
 ・自転車賠償保険加入

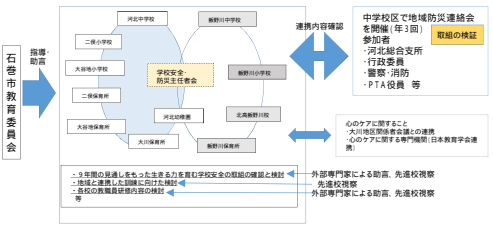
校区及び校舎、校区内の定期的な安全点検の実施 **年度初めの校区点検、複数教員による施設・設備点検**
 学校安全3領域の避難訓練の実施によるマニュアルの検証 **年間7回実施(地震6回(火災1回、原子力1回含む)、**
不審者1回)、訓練後の速やかな検証の実施
 教職員の高時間の研修の積み重ねによる実効性のあるマニュアル **マニュアル読み合わせ・研修と訓練後の確認の実施**
 「学校事故対応に関する指針」に基づいた対応の確認
 災害による心のケア要する生徒への継続的な支援 **スクールカウンセラー2名配置、大川地区児童生徒関係者会議**

組織活動

SPSの主な中期計画：
 ・地域関係者との連携
 ・保護者と危険箇所把握
 ・地区の学校との連携

中学校区で
 防災・安全
 だよりも発
 行し学校の
 取組を地域
 と共有

河北地区における「生きる力を育む学校安全推進体制の構築」事業の右の推進体制を基盤に体制整備を図る。
 安全担当主幹教諭を中心とした地区の学校防災の確立 **河北地区防災主任者会**
 行政委員、行政機関等の連携した組織 **河北中学校区地域防災連絡会**
 避難所開設担当部局等との確認 **避難所開設に当たっての確認書の作成**
 地域の避難児童生徒把握
 小・中間で**の避難児童生徒の共有**
 地域の危険情報等の迅速な共有
河北地区地域安全ネットワーク会議



指標1(組織)

地域と連携した組織的活動の展開

河北中学校区地域防災連絡会の設置(年3回実施)

- ・学校と保護者、地域住民等と連携した地域ぐるみの防災活動の充実を図る
- ・石巻市総合防災訓練による地域住民との災害時の対応確認
- ・災害時の避難所運営 等
- 今年は、4月5日に第1回目を開催 第2回を実施予定(10月)

河北地区防災会議(年3回実施)

- ・安全担当主幹教諭を中心とした河北地区の学校安全・防災体制等の確認
- ・河北地区幼・保・小・中学校一斉引渡し訓練の実施と検討
- ・石巻市防災訓練への参加に向けて 等

昨年は民生委員との防災研修(クロスロード)を行った



指標1 (組織)

全職員間での共有, 職員研修の実施

防災・安全部会の設置

- ・防災主任を中心に, 授業の教材研究や避難訓練の計画立案, 研修会の実施 等
- 災害時の対応(危機管理マニュアルの見直し)



- ・避難誘導方法や役割分担を確認
- 訓練後のマニュアルの改善等を確認

マニュアルをPDF化し, スマートフォンで閲覧を可能にした

AED・心肺蘇生法研修会

- 実際の場面を想定して実施。傷病者発見からAED使用まで5分以内でできるか実証等



指標2 (方略) 指標3 (計画)

学校安全の3つのプロジェクト

- 「健康とたくましさ育み」
- 「安全・安心な学校確立」
- 「地域と共に歩む開かれた学校づくり」

防災等の安全教育で学んだ知識や技能を主体的に活用できる生徒
数値目標 90%

学校教育目標(心身共にたくましく育む)	学校教育目標(心身共にたくましく育む)	学校教育目標(心身共にたくましく育む)
<p>学校教育目標・目指す生徒像に添えるために!</p> <p>(4) 防災・安心な学校 確立プロジェクト</p> <p>子どもが命を守るために、子どもたちが安全意識、危機を共有し学校に訴えるために、</p> <p>【実施方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 防災・安心な学校 確立プロジェクト 実施率 90% ② 防災・安心な学校 確立プロジェクト 実施率 90% ③ 防災・安心な学校 確立プロジェクト 実施率 90% ④ 防災・安心な学校 確立プロジェクト 実施率 90% ⑤ 防災・安心な学校 確立プロジェクト 実施率 90% ⑥ 防災・安心な学校 確立プロジェクト 実施率 90% ⑦ 防災・安心な学校 確立プロジェクト 実施率 90% ⑧ 防災・安心な学校 確立プロジェクト 実施率 90% ⑨ 防災・安心な学校 確立プロジェクト 実施率 90% ⑩ 防災・安心な学校 確立プロジェクト 実施率 90% 	<p>学校教育目標(心身共にたくましく育む)</p> <p>学校教育目標・目指す生徒像に添えるために!</p> <p>(4) 防災・安心な学校 確立プロジェクト</p> <p>子どもが命を守るために、子どもたちが安全意識、危機を共有し学校に訴えるために、</p> <p>【実施方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 防災・安心な学校 確立プロジェクト 実施率 90% ② 防災・安心な学校 確立プロジェクト 実施率 90% ③ 防災・安心な学校 確立プロジェクト 実施率 90% ④ 防災・安心な学校 確立プロジェクト 実施率 90% ⑤ 防災・安心な学校 確立プロジェクト 実施率 90% ⑥ 防災・安心な学校 確立プロジェクト 実施率 90% ⑦ 防災・安心な学校 確立プロジェクト 実施率 90% ⑧ 防災・安心な学校 確立プロジェクト 実施率 90% ⑨ 防災・安心な学校 確立プロジェクト 実施率 90% ⑩ 防災・安心な学校 確立プロジェクト 実施率 90% 	<p>学校教育目標(心身共にたくましく育む)</p> <p>学校教育目標・目指す生徒像に添えるために!</p> <p>(5) 「地域と共に歩む開かれた学校」づくりプロジェクト</p> <p>【実施方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 防災・安心な学校 確立プロジェクト 実施率 90% ② 防災・安心な学校 確立プロジェクト 実施率 90% ③ 防災・安心な学校 確立プロジェクト 実施率 90% ④ 防災・安心な学校 確立プロジェクト 実施率 90% ⑤ 防災・安心な学校 確立プロジェクト 実施率 90% ⑥ 防災・安心な学校 確立プロジェクト 実施率 90% ⑦ 防災・安心な学校 確立プロジェクト 実施率 90% ⑧ 防災・安心な学校 確立プロジェクト 実施率 90% ⑨ 防災・安心な学校 確立プロジェクト 実施率 90% ⑩ 防災・安心な学校 確立プロジェクト 実施率 90%

指標2(方略) 指標3(計画)

学校安全全体計画及び学校防災年間計画(抜粋)

学校安全全体計画

学校の現状
 ○本校は自然災害に発生し、被害の深刻な地域にあり、人の密集地が少ない。
 ○平成25年度からの発生頻度が高く、被害の深刻化する傾向があり、被害の深刻化する傾向があり、被害の深刻化する傾向がある。

学校教育目標
 自主性に富み、心身共に健やかに成長し、
新緑豊かな人徳の育成

安全教育の目標(重点)
 ○災害発生時の適切な対応能力の育成
 ○災害発生時の適切な対応能力の育成
 ○災害発生時の適切な対応能力の育成

学習指導要領

災害安全
 ○避難行動の適切な実施
 ○避難行動の適切な実施
 ○避難行動の適切な実施

生活安全
 ○日常生活上の安全確保
 ○日常生活上の安全確保
 ○日常生活上の安全確保

交通安全
 ○交通安全の徹底
 ○交通安全の徹底
 ○交通安全の徹底

防火安全
 ○防火安全の徹底
 ○防火安全の徹底
 ○防火安全の徹底

防犯安全
 ○防犯安全の徹底
 ○防犯安全の徹底
 ○防犯安全の徹底

自然・環境・健康・安全
 ○自然・環境・健康・安全の徹底
 ○自然・環境・健康・安全の徹底
 ○自然・環境・健康・安全の徹底

1学年 ○自然・環境・健康・安全の徹底
2学年 ○自然・環境・健康・安全の徹底
3学年 ○自然・環境・健康・安全の徹底

安全管理(対人・対物)

対人管理
 ○学校敷地内の危険箇所(防犯カメラ)への立ち入り禁止の指導を実施する。
 ○下校時の歩道・交差点等自転車の歩み方の指導を実施する。
 ○教職員が研修をして、生徒の心身の健康確保に努める。

対物管理
 ○教職員による校舎内外、遊具等の安全点検(毎月)を実施する。
 ○理科実験器具、理科室の安全確保を実施する。
 ○教職員による校舎周囲による点検、点検記録を管理する。

学校防災年間計画

月	実施内容	担当
1月	防火安全の徹底	教職員
2月	交通安全の徹底	教職員
3月	防犯安全の徹底	教職員
4月	自然・環境・健康・安全の徹底	教職員
5月	防災訓練の実施	教職員
6月	交通安全の徹底	教職員
7月	防火安全の徹底	教職員
8月	防犯安全の徹底	教職員
9月	自然・環境・健康・安全の徹底	教職員
10月	交通安全の徹底	教職員
11月	防火安全の徹底	教職員
12月	防犯安全の徹底	教職員

指標3(計画)

様々な災害想定による訓練の実施

災害の種類(地震・津波・原子力災害等)や発生時間帯等を設定して実施



河北地区幼・保・小・中学校引渡し訓練では、保護者に迎いの車の誘導を協力いただいた。



計画には、役割分担等は明記せず、臨機応変に対応できるように訓練を実施している。



令和3年度 避難訓練実施計画



- 4月 予告なし訓練
- 5月 予告なし訓練(地震想定:休み時間)
- 6月 河北地区幼・保・小・中学校合同引渡し訓練
- 8月 不審者対応訓練
- 9月 予告なし訓練(地震想定:清掃中)
- 10月 原子力災害想定訓練
石巻市総合防災訓練
- 11月 火災想定訓練
- 1月 予告なし訓練(地震想定:部活中)

緊急地震速報受信機を活用した避難訓練
昨年度、学校安全総合支援事業により設置

訓練の取組状況について

- 10 / 27(火) 石巻市シェイクアウト訓練に合わせて実施
- 11 / 18(水) 火災想定避難訓練 報道取材あり
- 地震後に火災が発生したことを想定
特別教室等からの避難を実施
- 12 / 8(火) 予告なし訓練(シェイクアウト訓練)

<生徒の様子>



緊急受信速報受信機設置後、初めて避難訓練を行った。放送を聞き、落ち着いて避難行動をとった生徒が多く見られた。

テレビ局の取材が入った中での訓練となったが、教職員の指示に従い、生徒たちは慌てることなく冷静な避難行動をとることができた。

ほとんどの生徒は冷静に行動していたが、一部の生徒で緊張感に欠ける言動が見られた。訓練の意義や重要性について、個別に指導を行った。

部活動における避難訓練

- <目的> 生徒が自分で考え行動する訓練(予告なし)
- <想定> 部活動中,震度6強の大地震(緊急地震速報受信機の活用)
教職員は職員会議中で不在
- <日時> 令和3年1月26日(火) 16時00分~17時00分
- <実施までの流れ>
防災・安全部会での検討 → 職員会議 → 部長会への周知
→ 部活動ごと生徒同士の話し合い → 避難訓練
→ 事後指導(各部での話し合い・共有)



<部長を中心とした事前ミーティング>
視点をもとに意見の共有

<訓練後の話し合い>



指標4(実践) 安全教育(生活安全)

保健の授業における けが防止の取組

学校で発生したけがの状況(統計データ)を指導資料としたけが防止に関する保健学習を行った。



体育の授業における けが防止の取組

パス練習等の基礎・基本の反復練習により,技能の未熟さから発生するけがの予防に取り組んだ。



指標4(実践) 安全教育(生活安全)

生徒会『保健委員会』での けが防止呼び掛け

保健委員会では、学校生活でのけがが多いことから、生活上、けがにつながる危険な行為の実態をクラスごとに調査し、各クラスで、けがをしないよう生活態度を見直すように呼び掛けた。

けがを予防しよう！
「休み時間の過ごし方チェック」
2年2組

※休み時間に、「走る・跳ねる・物を投げる」などのケガにつながる危険な行動をしていた人数を数えました。

実施日	危険な行動
9月18日	9人
9月24日	0人
10月2日	1人
10月9日	2人

応急手当(AED含む)訓練

講師
仙台大学体育学部健康福祉学科福田様・堀江様
学生の皆様

2年生が、AEDの使い方を含む応急手当の方法を体験した。いざというときに助けられるよう真剣に学習した。



指標4(実践) 安全教育(災害安全)

防災副読本等を活用した防災学習



総合的な学習の時間を中心に、石巻市及び宮城県の防災教育副読本等を活用した学習を各学年の計画に沿って実施
避難訓練の事前事後等に活用する場面もある。

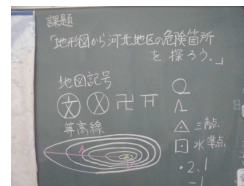
石巻市総合防災訓練 への参加



昨年度は台風第19号、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、2年連続で訓練が中止となった。これまで同様、次年度以降も地域の一員として総合防災訓練に参加し、地域住民と災害時の対応を確認していく。



防災マップを活用した学習 ・ ・ 河北地区の危険箇所を学ぶ ・ ・



2年社会の授業で、地図記号と地形図の読み取りを学習(地図記号、等高線の見方など)住んでいる地区ごとに、地図上から地域の危険箇所や災害が発生しやすい場所を調査地図上に目印として貼り、学級全体で共有



1年時には、総合的な学習の時間で、農林水産省東北農政局職員から河北地区の治水に関する講義を受けている。



防災教育研修会で河北地区の 地形を学ぶ

東洋英和女学院大学
准教授 桜井 愛子 氏を講師に招き、
1・2年生を対象に研修会を実施



河北地区の地形図から災害特性を学び、
避難行動に役立てる学習



防災学習（総合）

6 / 18 (木) 6h (総合的な学習の時間) 石巻市防災教育副読本を活用

1年生: 学校にいるときに地震が起きたら (P17 ~ P18)

2年生: 災害時の備えについて考えよう (P23 ~ P24) 保健体育との関連

3年生: こんな場所で地震が起きたら (P19 ~ P20) 修学旅行との関連

< 1年生: グループでの共有 >



< 3年生: グループでの意見交換 >



< 2年生: 発表のまとめ >



防災啓発ティッシュの作成

・ 防災合言葉を地域と共に共有 ・

全校生徒に募集した防災合言葉の中から優秀作品を選び(校内で表彰), 3年生の総合的な学習の時間の中でデザインを作成し, ティッシュへの詰め込み作業を行いました



令和2年度 石巻市立河北中学校「防災合言葉」優秀作品

優秀賞

No.	防 災 合 言 葉
1	逃げようよ 自分の命 最優先
2	備えよう 防災知識と防災意識 心の中に忘れずに
3	忘れるな 教えてもらった 避難場所
4	まずは逃げよう 命のために 未来のために
5	助け合い 生きるための 第一歩
6	訓練を しっかり受けた いざ行動
7	とにかく避難 絶対来ないは 絶対ない
8	一瞬の判断と避難が 未来を決める
9	落ち着いて 避難行動 迅速に 未来につなごう 命のバトン
10	落ち着いて 訓練したこと 実行しよう
11	あせったら 大事な時に 深呼吸
12	決めておこう避難場所 大切な命を 守るために
13	共に生きのびろ 冷静な行動を



12月の独居高齢者宅訪問時
や小学校交流会時に来年度
の入学生へ配布

防災キャンドルの製作

・ ・ 独居高齢者宅に配布 ・ ・

3年生の生徒による防災キャンドルづくり

ろうそくを溶かしてクレヨンで色付けし、12月に独居高齢者宅へ手紙とともに郵送して配付



指標4 (実践) 安全教育(交通安全)

交通安全教室の実施

1年生を対象に、交通ルールや安全な自転車の乗り方について、河北警察署及び交通指導隊の方々による講話をいただきました。

(参考：R元年度は、スタントマンによる交通安全教室も実施)



危険箇所の共有と 集団下校(地区生徒会)

地区生徒会において、通学路上における危険箇所の確認と集団下校を行いました。



保健の授業(2年生) ～危険回避予測トレーニング～

保健の授業では、動画を活用した危険回避トレーニングを毎年、実施しています。



指標4(実践) 安全教育(交通安全)

保健安全委員会による 交通標語コンクール



秋の交通安全週間にあわせて実施
クラスごと、交通事故防止に関する説明を行い、交通安全標語を募集しました。
優秀作品を選び、学年集会の中で表彰を行いました。



指標4(実践) 安全管理(校内研修等)

食物アレルギー研修会の 実施(4/1)

年度初めに、スクールバスの乗務員を
含めた全教職員でアナフィラキシーシ
ョック症状が起きた時の対応の確認やエ
ピペントレーナーを用いた実技研修を実
施した。



熱中症事故防止研修会 の実施(6/18)

新しい生活様式における熱中症予防行
動や、熱中症が発生した場合の対応に
ついての研修会を実施した。



消火栓ポンプの操作及び 消火訓練の実施(4/1)

消火栓設備業者を講師に招き、火災が発生した際の初期消火について訓練を実施した。消火栓ポンプの動かし方や放水ホースの接続について、作業手順を一つ一つ確認しながら訓練を実施した。



通学路の危険箇所点検(4/2) 及び地区生徒会での情報共有

ほとんどの生徒が自転車で登校するため、通学路の危険箇所を教職員が再度点検し、災害時における地区の避難場所の位置確認もあわせて行った。危険箇所点検で分かった情報を地区生徒会での話し合いで生かし、教職員から生徒に周知するとともに、先輩から新入生に対して通学路上の危険について教え合う等、登下校時における危険性について共有した。



職員による複数制安全点検の実施

通常、毎月一人で複数箇所の安全点検を実施しているが、それに加えて、年3回(4月・8月・12月)、複数人で安全点検を実施した。

その結果、新たな視点で点検を実施することができ、63か所(通常の点検では月平均3.3か所)の改善が必要な箇所があげられた。

項目	点検内容	点検結果	備考
1	校舎		
2	校舎		
3	校舎		
4	校舎		
5	校舎		
6	校舎		
7	校舎		
8	校舎		
9	校舎		
10	校舎		
11	校舎		
12	校舎		
13	校舎		
14	校舎		
15	校舎		
16	校舎		
17	校舎		
18	校舎		
19	校舎		
20	校舎		
21	校舎		
22	校舎		
23	校舎		
24	校舎		
25	校舎		
26	校舎		
27	校舎		
28	校舎		
29	校舎		
30	校舎		
31	校舎		
32	校舎		
33	校舎		
34	校舎		
35	校舎		
36	校舎		
37	校舎		
38	校舎		
39	校舎		
40	校舎		
41	校舎		
42	校舎		
43	校舎		
44	校舎		
45	校舎		
46	校舎		
47	校舎		
48	校舎		
49	校舎		
50	校舎		
51	校舎		
52	校舎		
53	校舎		
54	校舎		
55	校舎		
56	校舎		
57	校舎		
58	校舎		
59	校舎		
60	校舎		
61	校舎		
62	校舎		
63	校舎		

改善が必要な所を
63箇所発見!

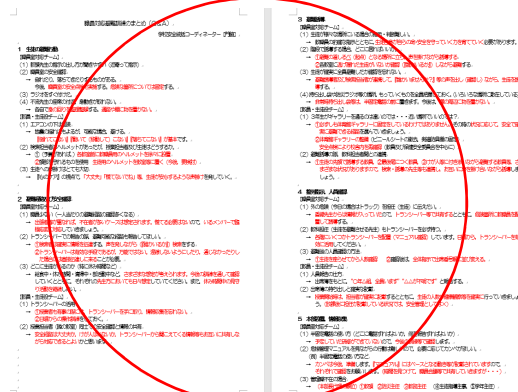
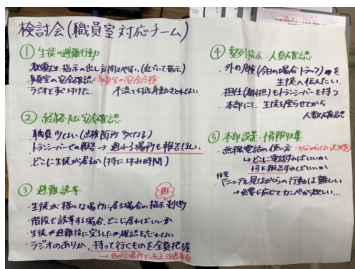


職員対応避難訓練（校内研修）

5 / 21 (木) 休校中に実施 地震発生後の対応を確認
職員役と生徒役を抽選で決定



訓練後は、映像を用いて、職員全体で振り返りを実施
今後の対応について共通理解を図る



< 職員の感想 >

○今回の訓練により、避難誘導の仕方や具体的な指示等について知ることができた。

○生徒役の先生からアドバイスをもらい、自分の動きについて再確認できた。

指標4 (実践) 生活安全(新たな危機事象への対応)に関する取組

新型コロナウイルス感染症 予防に関する授業(保健体育)

新型コロナウイルス感染症の予防に関する保健学習を全学年で実施した。 養護教諭との連携

→ 学習指導要領では、3年生の学習内容となっているが、1・2年生も前倒して実施。昨年2月の段階で年間指導計画に組み入れた。

学習後は、マスクの着用・手洗いなどの予防行動を自主的に行えるようになった。



保健安全委員による 手洗い指導

生徒による手洗い指導を実施したことで、生徒同士が「洗い残しの多いところは?」「石けんを泡立てて30秒以上」などと、声を掛け合いながら正しい手洗い方法を実践することたできた。



掲示物による感染症予防教育

手洗い方法やソーシャルディスタンスに関する掲示物により、予防の大切さや具体的な方法について知らせた。



ソーシャルディスタンス
2M



フェイスシールドづくりによる感染 予防の意識付け(技術・家庭)

フェイスシールドを作成し、グループ学習や歌唱指導等で使用した。

飛沫による感染を防ぐとともに、話すことや近づくことで飛沫が飛散してしまうことの意識付けを行った。



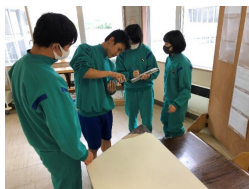
生徒会 『保健安全委員会』での 学校安全についての学習

保健安全委員会で、河北中のけがの発生状況や
予防対策についての学習を行い、安全点検の重要
性について学んだ。



生徒主体による安全点検の実施

保健安全委員会で、校舎内の「施設設備の不備」「使い方によ
っては危険」「災害時の危険」の3つの観点で校舎内の安全点
検を実施し、その結果を「危険箇所マップ」にまとめ掲示した。



指標5(評価) 取組についての評価

学校評価から見た昨年度の成果と課題

< 生徒アンケート >

- Q 防災、災害に関する知識や態度が身に付いてますか
H30 92.2% → R1 93.9% → R2 94.0%
- Q 台風接近時など災害等が予想される際の注意喚起に
関する保護者メールが学校から配信されていることを知っていますか
H30 95.5% → R1 98.0% → R2 95.0%
- Q 登下校の安全に注意していますか
H30 87.6% → R1 91.9% → R2 88.0%

< 保護者アンケート >

- Q 学校は、防災に関する指導や管理を適切に行っているか
H30 92.5% → R1 93.8% → R2 90.0%
- Q 学校は、台風接近時などの災害が予想される際、迅速な
メール配信を行うなど、安全確保を適切に行っているか
H30 97.7% → R1 97.3% → R2 92.0%
- Q 登下校時の安全指導を適切に行っているか
H30 88.0% → R1 95.6% → R2 88.0%

学校保健委員会での 保健安全課題とその 対策についての評価



教職員・学校医・保護者らと学校
におけるけがの発生その他、保
健安全課題について現状を共有
し、その対策についての指導助
言をいただいた。

防災教育で学んだことが、自らの事故防止に活かされているか検証する
【日本スポーツ振興センター災害共済給付件数から】R1の給付件数1桁

指標6 (改善)

今年度の課題を踏まえた次年度(令和3年度)の計画素案 年度末反省会での意見をもとに作成予定

令和2年度重点努力事項(心をめがくための具体目標)案
学校教育目標・目指す生徒像に添えるために!
(4)「安全・安心な学校、健立プロジェクト」
子どもの命を重んじ、子どもたちの健全な発達、健やかなる学校に努めるために

【中核的取組の具体化】
 「防災・防災教育」を、学校生活を通じて、年度別、3.9% (前年比: 4.7%)
 「防災教育」を、学校生活を通じて、年度別、3.9% (前年比: 4.4%)
 「防災教育」を、学校生活を通じて、年度別、3.9% (前年比: 4.4%)
 「防災教育」を、学校生活を通じて、年度別、3.9% (前年比: 4.4%)

【中核的取組の具体化】
 「防災・防災教育」を、学校生活を通じて、年度別、3.9% (前年比: 4.7%)
 「防災教育」を、学校生活を通じて、年度別、3.9% (前年比: 4.4%)
 「防災教育」を、学校生活を通じて、年度別、3.9% (前年比: 4.4%)
 「防災教育」を、学校生活を通じて、年度別、3.9% (前年比: 4.4%)

【中核的取組の具体化】
 「防災・防災教育」を、学校生活を通じて、年度別、3.9% (前年比: 4.7%)
 「防災教育」を、学校生活を通じて、年度別、3.9% (前年比: 4.4%)
 「防災教育」を、学校生活を通じて、年度別、3.9% (前年比: 4.4%)
 「防災教育」を、学校生活を通じて、年度別、3.9% (前年比: 4.4%)

令和2年度重点努力事項(心をめがくための具体目標)案
学校教育目標・目指す生徒像に添えるために!
(2)「健康なたくましさ」取り組みプロジェクト - 体力向上と健康安全-

【中核的取組の具体化】
 「健康なたくましさ」取り組みプロジェクト - 体力向上と健康安全-
 「健康なたくましさ」取り組みプロジェクト - 体力向上と健康安全-
 「健康なたくましさ」取り組みプロジェクト - 体力向上と健康安全-

【中核的取組の具体化】
 「健康なたくましさ」取り組みプロジェクト - 体力向上と健康安全-
 「健康なたくましさ」取り組みプロジェクト - 体力向上と健康安全-
 「健康なたくましさ」取り組みプロジェクト - 体力向上と健康安全-

【中核的取組の具体化】
 「健康なたくましさ」取り組みプロジェクト - 体力向上と健康安全-
 「健康なたくましさ」取り組みプロジェクト - 体力向上と健康安全-
 「健康なたくましさ」取り組みプロジェクト - 体力向上と健康安全-

令和2年度重点努力事項(心をめがくための具体目標)案
学校教育目標・目指す生徒像に添えるために!
(5)「地域と共に歩み深められた学校」づくりプロジェクト

【中核的取組の具体化】
 「地域と共に歩み深められた学校」づくりプロジェクト
 「地域と共に歩み深められた学校」づくりプロジェクト
 「地域と共に歩み深められた学校」づくりプロジェクト

【中核的取組の具体化】
 「地域と共に歩み深められた学校」づくりプロジェクト
 「地域と共に歩み深められた学校」づくりプロジェクト
 「地域と共に歩み深められた学校」づくりプロジェクト

【中核的取組の具体化】
 「地域と共に歩み深められた学校」づくりプロジェクト
 「地域と共に歩み深められた学校」づくりプロジェクト
 「地域と共に歩み深められた学校」づくりプロジェクト

指標7 (共有)

学校だよりによる地域への取組の発信

河北中学校区の安全に関する取組も地域に発信

「防災教育」の取組を、地域に発信し、防災意識を高めてもらうこと。...

「防災教育」の取組を、地域に発信し、防災意識を高めてもらうこと。...

「防災教育」の取組を、地域に発信し、防災意識を高めてもらうこと。...

河北中学校区 安全・防災だより

つなごろう

河北中学校区 安全・防災だより

つなごろう

学校だよりは本校ホームページにも掲載

昨年度は、地区の民生委員が集まる研修会で、生徒が防災に関する取組を発表した。(小学6年生にも発表)



4 成果と課題

< 成果 >

生徒の安全に関する意識や態度の向上が見られる。

教職員の危機管理に対する意識や臨機応変な対応能力が向上している。

< 課題 >

生徒に安全教育を行うための準備や時間の確保，学校安全に取り組むための人員確保が難しい。

学校安全を推進していくための体制や担当者への引継ぎなどを意識した組織づくりを構築していきたい。

< 今後に向けて >

学校安全を推進する**組織づくり**

学校安全の役割を担う**担当者**と**引き継ぎ体制の確立**

地域や関係機関との**連携**

安全**計画の策定**と**実施・振り返り**

【スタッフ紹介】

岩手大学教育学部附属教育実践・学校安全学 研究開発センター

センター長 教授 宇佐美 公生（倫理学・哲学）

副センター長 准教授 本山 敬祐（教育行政学）

兼務教員 教授 上濱 龍也（学校保健、公衆衛生学）

准教授 菊地 洋（憲法学）

准教授 滝吉 美知香（特別支援心理学）

准教授 佐合 智弘（化学）

准教授 庄子 元（人文地理学）

客員教授 仁昌寺 真一